

特 61

864

明治卅六年四月再版



救主降世一千九百三年

小祈禱書



一 此書はセクスト、コムプリン、
 傳道リタニー及び他の感謝
 祈禱を載せたるものなり
 一 編纂者の目的は此書が殊に
 日本聖公會信徒に使用せら
 れんことなり

目 録

セクスト(午時祈禱).....	一
コムプリン(就寢前祈禱).....	一七
特別祈禱.....	三五
天下の聖公會のため.....	三五
傳道のため.....	三六
イスラエルの改心のため.....	三六
傳道心振起せんため.....	三七
日本聖公會監督のため.....	三八
教會のため.....	三九

働人のため……………四〇
 學校其他の働のため……………四一
 神學校のため……………四一
 學校のため……………四一
 親戚朋友のため……………四三
 信徒按手式志願者のため……………四三
 指導のため……………四四
 主日前夜の祈……………四五
 聖餐前の祈……………四六
 聖餐後の祈……………四六
 晩の感謝……………四七
 ………………四八

修養會の祈……………四八
 傳道感謝……………五一
 傳道リタニー……………五九
 傳道詩篇……………七五
 特別小日課……………八一

セグスト

午時祈禱

皆跪き司會者唱フベシ

父と子と聖靈の名によりて。アーメン

皆唱フベシ

天に在す我等の父よ。願くは聖名を聖となさしめ給へ。聖國
 を臨らしめ給へ。聖旨を天に於る如く。地にも行はしめ給へ。
 我等の日用の糧を今日もあたへ給へ。我らに罪を犯すもの
 を我ら赦す如く。我等の罪をも赦したまへ。我等を試に遇せ
 ず。悪より救ひ出したまへ。アーメン

○

司會者

神よ速に我等を救ひ給へ

會衆 主よ疾く來りて我等を祐け給へ

『此處ニテ皆立ツベシ』

司會者 父と子と聖靈に榮光あれ

會衆 元始にあり方今あり世々限なく在なりアーメン

『此處ニテ詩歌ヲ用フルコト隨意ナリ』

『次ニ左ノ詩ノ全部或ハ其幾部ヲ誦スベシ』

○詩百十九篇

○第一部

81 わが靈魂は爾の救を慕ひて絶え入ばかりなり

されど余なほ聖言によりて望をいだく

82 わが眼は聖言を慕ふによりて衰ふ

われ言へり爾何の時われを慰るやと

83 われは煙の中の革囊のごとくなりぬ

されど尙爾の律法をわすれず

84 爾の僕の日は幾何ありや

爾何の時われを責る者に審判を行ひ給ふや

85 たかぶる者われを害はんとて阱を穿れり

かれらは爾の法にしたがはず

86 爾の誠命はみな眞なり

かれらは偽をもて余をせむ願くは余を助けたまへ

87 かれらは地にて殆どわれを滅せり

されど余は爾の訓諭を棄てざりき

88 ねがはくは爾の仁慈に従ひて余を生したまへ

然ばわれ聖口より出る證詞をまもらん

89 主よ聖言はさだまれり

天にて永遠に定まれり

90 爾の眞はよろづ世におよぶ

爾地を堅く立てたまへば地はつねにあり

91 此等のものは爾の命令に従ひ恒にありて今日にいたる

萬のものは皆爾の僕なればなり

92 爾の法わが樂とならざりしならば

われはつひにわが患難のうち滅びたりしならん

93 われ恒に爾の訓諭をわすれじ

爾これをもて余を生したまへばなり

94 我は爾の有なり願くはわれを救ひたまへ

われ爾のさとしを求めたり

95 悪きものは余を滅さんとして窺ひぬ

われは唯爾の諸の證詞をおもはん

96 余もろくの全に極あるを見たり

されど爾の誠はいと廣し

父と子と聖靈に榮光あれ

元始にあり方今あり世々かぎりなく在なりアーメン

○ 第二部

97 われ爾の法をいつくしむこと如何ばかりぞや

われ終日これを深くおもふ

98 爾の誠命はつねに余とよもにあり

余をわが仇にまさりて慧からしむ

99 余は爾の證詞をふかく思ふ

ゆゑにわれすべての師にまさりて智恵おほし

100 余は爾の訓諭をまもりたり

故に老たる者にまさりて事をわきまふるなり

101 われ聖言をまもらん爲にわが足をとゝめ

もろくの悪しき途にゆかしめず

102 余爾の審判を離れざりき

爾余を教へたまひたればなり

103 みことばの味はわが脛に甘きこと何ばかりぞや

蜜のわが口に甘きにまされり

104 余爾の訓諭によりて智恵を得たり

このゆゑに偽のすべての途をにくむ

105 爾の聖言はわが足の燈火なり

わが路のひかりなり

106 われ爾のたゞしき審判をまもらん

余これを誓ひ且かたくせり

107 われ甚いたく苦しめり

主よ願くは聖言に従ひて余をいかしたまへ

108 主よねがはくは誠心よりする余口の獻物をうけ

爾の審判を教へたまへ

109 余たましひは常に危きを犯す

されど余爾の法をわすれず

110 悪きもの余ために蹄をまうけたり

されど余爾の訓諭より迷ひ出でざりき

111 余爾の諸の證詞を永遠にわが嗣業とせり

これらはわが心を喜ばしむ

112 われ爾のおきてに心を傾けたり

われ絶えず終まで之をまもらん

父と子と聖靈に榮光あれ

元始にあり方今あり世々かぎりなく在なりアーメン

○ 第三部

113 われ二心のものを惡む

されど爾のおきてを愛しむ

114 爾はわが匿るべき處わが盾なり

われ聖言によりて望をいだく

115 あしきを爲すものよ余を離れされ

われ余神のいましめを守らん

116 聖言に従ひわれをさへて存へしめ給へ

わが望につきて恥なからしめ給へ

117 余をさへ給へさらば余安けかるべし

われ恒に爾の律法にこゝろをそゝがん

118 すべて律法より迷ひ出るものを爾かるしめ給へり

かれらの欺は空しければなり

119 爾は地のすべての悪きものを渣滓の如く除き去給ふ

この故にわれ爾のあかしを愛す

120 わが肉腠爾を懼るによりて震ふ

余は爾の審判をおそる

121 われは審判と公義とを行ひたり

われを棄て虐ぐるものに委ねたまふ勿れ

122 爾の僕の中保となりて福を得しめ給へ

高ぶるものゝ余を虐ぐるを容したまふ勿れ

123 わが眼は爾の救を慕ふによりて衰ふ

爾の義しき聖言をも慕ふによりてなり

124 願くは爾の憐に從ひて爾の僕をあしらひ

余に爾の律法を教へたまへ

125 余は爾の僕なり

われに智慧を與へて爾の證詞を知らしめ給へ

126 今は望のはたらき給ふべき時なり

かれらは爾の法をすてたり

127 この故にわれ爾のいましめを愛し

金よりも雑なき金よりも勝りて之を慕ふ

128 是故に余諸の事に係る爾の凡ての訓諭を正と思ひ

すべての偽のみちを憎む

父と子と聖靈に榮光あれ

元始にあり方今あり世々かぎりなく在なりアーメン

皆唱フベシ

主よ余希望につきて耻なからしめ給へ

此處ニテ司會者左ノ小日課ヲ讀ミ或ハ『特別小日課』又ハ適宜ニ選ミシ日課ヲ

讀ムベシ

凡ての事辨へよ善事を守れ惡の凡ての類に遠かるべし
神は頌むべきかな

○

主よみことばは天にて永遠に定まれり
爾の眞實はよろづ世におよぶ

司會者
會衆

父と子と聖靈に榮光あれ

元始にあり方今あり世々限なく在なりアーメン

主はわれの牧者なり

われは乏しきことあらじ

○

我等祈るべし

此處ニテ當日ノ特禱ヲ用フルヲ得

セクストの特禱

最惠み深きイエス我等の主我等の神よ爾は我等罪に死に
て義に活んが爲め正午の頃木の上に懸りて我等の罪を己
が身に負ひ給へり願くは今も死に臨む時にも我等を憐み

給へ。又我等爾の卑き僕をして爾の苦難を恭しく記念する
 他の聖徒と俱に此世に於ては安穩に聖き生涯を送り後の
 世に於ては疆なき榮光に與らせ給へ。爾は父と聖靈と俱に
 一體の神に在して世々疆なく統御め給ふなり アーメン

「此處ニテ『特別祈禱』又ハ『傳道感謝』ヲ用フルヲ得

○

司會者 願くは主汝等と俱に在すことを

會衆 願くは主汝の靈と俱に在すことを

司會者 我等主を祝ひまつらん

會衆 神は頌むべきかな

「司會者唱フベシ

セクスト終

願くは主我等を憐み其の凡ての忠義なる僕世にあるもの
 及び世を去りし者と俱に安らかに憩はせ給はんことを

アーメン

三六

コムプリン 就寝前祈禱

皆跪キ司會者唱フベシ

父と子と聖靈の名によりて。アーメン

全能の神よ。今夜我等を安く眠らせ。尙蘇生の日に幸なる醒を得させたまへ。アーメン

司會者 救の神よ我等を歸し給へ

會衆 我等に向ひて御怒を止め給へ

司會者 神よ速に我等を救ひ給へ

會衆 主よ疾く來りて我等を祐け給へ

『此處ニテ皆立ツベシ』

司會者

父と子と聖靈に榮光あれ

會衆

元始にあり方今あり世々限なく在なり。アーメン

『此處ニテ次ノ詩或ハ其部分ヲ歌ヒ或ハ誦スベシ』

○詩四篇

1 わが義のもとなる神よさゝたまへ

わが呼はるときにこたへたまへ

2 わがなやみたる時爾余をくつろがせたまへり

ねがはくは余をあはれみわが祈をさゝたまへ

3 人の子よ汝ら我榮を耻ぢしめて幾何時をへんとするか
汝等空き事を好み虚偽を慕て幾何時を經とするか

4 汝ら知れ主は己を敬ふ人を別て己が有としたまひしを

われ主によばはらば聽たまはん

5 なんぢら愼みをのゝきて罪をかすなかれ

臥床にておのが心にかたりて黙せ

6 なんぢら義のそなへものをさゝげよ

なんぢら主に依頼め

7 多くの人はいふ誰か嘉事を余らに見する者あらんやと

主よ願くは聖顔の光をわれらの上に昇らせ給へ

8 爾はわが心によろこびを與へたまへり

かれらの穀物と酒との豊なる時の喜にまさりき

9 われ安然にして臥しましたねむらん

三よわれを坦然に居しむる者は唯爾なり
 父と子と聖靈に榮光あれ

元始にあり方今あり世々かぎりなく在なりアーメン

○詩三十一篇

1 三よ余爾に依頼む願くは何日迄も愧を負しめ給ふ勿れ

2 爾の義をもてわれを助けたまへ

3 願は余爲に堅磐となり余を救ふ保障の家と爲給へ

4 願くは彼等が密に設けたる網より余を引出したまへ

5 わが靈魂を爾の手にゆだね

三よ眞の神よ爾は余をあがなひたまへり

父と子と聖靈に榮光あれ

元始にあり方今あり世々かぎりなく在なりアーメン

○詩九十一篇

1 至上者のもとその隠れたる所にすまふ者あり

2 かれは全能者の蔭にやどらん

3 わがよりたのむ神なりと

4 神汝を獵人のわなより助け出し

三よわれを坦然に居しむる者は唯爾なり

父と子と聖靈に榮光あれ

元始にあり方今あり世々かぎりなく在なりアーメン

○詩三十一篇

1 三よ余爾に依頼む願くは何日迄も愧を負しめ給ふ勿れ

2 爾の義をもてわれを助けたまへ

3 願は余爲に堅磐となり余を救ふ保障の家と爲給へ

4 願くは彼等が密に設けたる網より余を引出したまへ

5 わが靈魂を爾の手にゆだね

三よ眞の神よ爾は余をあがなひたまへり

父と子と聖靈に榮光あれ

元始にあり方今あり世々かぎりなく在なりアーメン

○詩九十一篇

1 至上者のもとその隠れたる所にすまふ者あり

2 かれは全能者の蔭にやどらん

3 わがよりたのむ神なりと

4 神汝を獵人のわなより助け出し

毒をながす疫癘よりのがれしめたまはん

4 彼其翮をもて汝を覆ひ給はん汝其翼の下にかくれん

その眞實は盾なりこだてなり

5 夜はおどろくべきことあり

晝はとびきたる矢あり

6 幽暗には歩む疫癘あり日午には害ふ烈きやまひあり

されど汝おそるゝことあらじ

7 千人汝の左にたふれ萬人汝の右にたふる

されどその災害は汝に近くことなからん

8 汝の目はたゞこの事をながめ見るのみ

汝悪者のむくいを見ん

9 汝曩にいへり室はわが避所なりと

汝至上者をそのすまひとなせり

10 されば災害汝にいたらず

苦難汝の幕屋にちかづかじ

11 そは至上者汝の爲めに其使者輩におほせ

汝が歩むもろくの道に汝を守らせたまへばなり

12 かれら手にて汝をさゝへ

汝の足を石にふれざらしめん

13 汝は獅と蝮とをふみ

壯獅と蛇とを足の下にふみにじらん

14 かれその愛を我に注げるが故に我これを助けん

彼わが名を知が故に我之をたかき處におかん

15 かれ我をよばい我こたへん

我その苦難の時に偕に居て之を助け之をあがめん

16 我長壽をもてかれを足はしめ

且わが救をかれにしめさん

父と子と聖靈に榮光あれ

元始にあり方今あり世々かぎりなく在なりアーメン

詩百三十四篇

1 よる宝のいへに立ち宝に事ふるもろくのしもべよ

宝を頌まつれ

2 なんぢら聖所にむかひて手をあげ

宝をほめまつれ

3 願くは主シオンより汝をめぐみ給はんことを

主は天地をつくり給へるものなり

父と子と聖靈に榮光あれ

元始にあり方今あり世々かぎりなく在なりアーメン

皆唱フベシ

主よ我等を憐み我等の祈を聴きたまへ

此處ニテ司會者左ノ小日課或ハ『特別小日課』又ハ適宜ニ選ミシ日課ヲ讀ムベシ

シ

主よ爾は我等の間に在す我儕は爾の名をもつて稱へらる

るものなり我儕を棄て給ふ勿れ
 神は頌むべきかな

此處ニテ詩歌ヲ用フルコト隨意ナリ

司會者 神よ我を睡の如くに守りたまへ
 會衆 爾の翼の影に隠したまへ

此處ニテ次ノ頌ヲ歌フベシ

シメオンの頌

1 主よ今其言に従がひて 僕を安然に世をば逝せたまふ
 2 余が眼すでに 萬民の前に設け給ひし救濟を見たり
 3 是異邦人を照んひかり也 又爾民イスラエルの名聲也
 父と子と聖靈に榮光あれ

元始にあり方今あり世々かぎりなく在なりアーメン

皆唱フベシ

主よ醒むる間に我等を救ひ眠る間も守護りたまへ我等を
 して醒むる間に基督と俱に眼を醒し眠る間も安然に休息
 ましめ給へ

司會者 我等祈るべし

此處ニテ皆跪クベシ

司會者 主よ憐みたまへ
 會衆 基督よ憐みたまへ
 司會者 主よ憐みたまへ

皆唱フベシ

天に在す我らの父よ願くは聖名を聖となさしめ給へ。聖國を臨らしめ給へ。聖旨を天に於る如く地にも行はしめ給へ。我らの日用の糧を今日もあたへ給へ。我等に罪を犯すものを我ら赦す如く我らの罪をも赦したまへ。我等を試に遇せず。悪より救ひ出したまへ。アーメン

○

司會者

父と子と聖靈なる神を祝ひまつらん

會衆

萬物に勝りて常に祝ひ崇めまつらん

司會者

至上所に在す主よ爾を祝ひたてまつる

會衆

世々うたひ崇めたてまつる

司會者

願くは最恩惠深き全能の神我等をさきはひ守護り

給はんことを

會衆

アーメン

○懺悔

皆唱フベシ

父と子と聖靈なる全能の神よ我等は己の大なる過失により。思と言と行にて。許多の罪を犯せしことを。悲み懺悔し奉る。神よ願くは我等を憐憫たまへ

可此處ニテ長老左ノ救罪ヲ告ケベシ長老ニ非ザル司會者ハ次ノ禱ヲ用フベシ

願くは憐恤深き全能の主汝等の罪を解き赦し給はんことを願くは主其の聖靈の聖恩と慰藉とを與へ悔改に合ふ新なる生涯を渡らせ給はんことを。アーメン

又

願くは全能の神我等を憐み我等の罪を悉く赦し疆なき生命に至らせ給はんことを アーメン

○

司會者 主よ聖顔をむけて我等を活し給へ

會衆 さらば聖民爾にありて喜ばん

司會者 主よ憐恤を我等に顯し給へ

會衆 爾の救を與へ給へ

司會者 主よ今夜我らを守護たまへ

會衆 罪を犯すことなからしめたまへ

司會者 主よ我等を憐みたまへ

會衆 我等を憐み給へ

司會者 主よ我等に憐恤をたれ給へ

會衆 我等常に爾に依頼れり

司會者 萬軍の神よ爾の聖顔の光を照らし給へ

會衆 さらば我等救を得ん

司會者 主よ我等の祈を聽き給へ

會衆 我等の聲を爾の前に到らせたまへ

司會者 我等祈るべし

「左ノ祈ノ前ニ當日ノ特禱ヲ用フルコト隨意ナリ

○コムプリンの特禱

主よ我等の暗黒を燭照し爾の大なる憐恤をもつて今夜の

危難を防ぎ給はんことを聖子我らの救主イエス基督の慈愛によりて希ひたてまつる アーメン

又

主よ我等の家を顧み仇なすもの、策畧を悉く退け給へ。願くは聖き天の使者を我等と共に住はせ我等を平安に守らしめ給へ。主よ常に聖恩を我等の上に注ぎ給はんことを主イエス基督に依て希ひたてまつる アーメン

「此處ニテ『特別祈禱』又ハ『傳道感謝』ヲ用フルヲ得

司會者 願くは主汝等と共に在すことを

會衆 願くは主汝の靈と共に在すことを

司會者 我等主を祝ひまつらん

會衆 神は願むべきかな

「司會者唱フベシ

願くは主我等を憐みその凡ての忠義なる僕世にあるもの及び世を去りし者と俱に安らかに憩はせ給はんことを
アーメン

特別祈禱

「司會者ハ適宜ニ之ヲセクスト又ハコムプリンノ特禱ト併セ用フルヲ得

「司會者祈禱ノ前ニ『我等何々の爲に祈るべし』ト云フベシ

◎ 天下の聖公會のため

恩寵に富み給ふ父よ我等の祈を顧み天下の聖公會に總ての眞理を充し眞理と俱に總ての親愛を充し給へ若し腐敗あらば之を淨め誤謬あらば之を矯め迷信あらば之を正し過失あらば之を改め公義あらば之を強め固らし缺乏あらば之を足し給へ嗚呼イスラエルの聖者よ分れ裂けたる所の多くの罅隙をば補ひ給へ聖子我等の救主イエス基督に依て希ひたてまつるアーメン

○傳道のため

全能の神收穫を幸り給ふ主よ世界の民を收入んが爲め遣
 されたる者を祝ひ給はんことを祈奉つる主よ願くは常に
 彼等と俱に在し危き時に守護り困難の時に導き失望の時
 に扶助け給ひて彼等の事業を隆盛ならしめ其必要に應じ
 て忠實なる働の伴侶を遣り給へ願くは聞くものゝ耳を開
 き拯に係る聖語を聞かしめ又新なる生命に蘇生らせ給ふ
 ものに終まで耐忍ぶことを得させ給へ聖子我等の救主イ
 エス基督に依て希ひたてまつる アーメン

○イスラエルの改心のため

永久に在す神よ爾の憐恤は疆なく爾の権力は量なし願く

は古より爾の民なるイスラエルを眷顧み其心中にある覆
 を除き己が刺せし榮光の主を仰ぎ觀て悲嘆むとを得させ
 給へ願くは異邦人の數充ちイスラエルの人悉く救るゝ日
 を速ならしめ給へ天の父よ此等の事を十字架を以てユダ
 ヤ人と異邦人を一の體となし爾と和がしめ給ひし聖子我
 等の救主イエス基督の績に依て希ひ奉る アーメン

○傳道心振起せんため

主イエス基督よ爾は使徒等に徧く世界を廻りて凡ての人
 に福音を宣傳よと命じ給へり願くは凡て爾の公會に列り
 たる人々をして爾の道普く地に知られ爾の救諸の民に知
 れんとを熱心に望ましめ給へ又願くは聖名を稱るもの皆

爾しゆにありて心こころを一ひとつにし熱心ねつしんに祈いのり豊ゆたかに供物ともものを獻たまげて聖國せいこくを擴ひろめ榮光あきかを顯あらはすとを得えさせ給たまへ爾しゆは父ちちと聖靈せいれいと俱ともに一ひとつ體たいの神かみに在ありて世々よよ疆かぎりなく統御すさめ給たまふなり

アーメン

○日本聖公會監督のため

最慈悲いとじ深ひき父ちちよ願ねがはくは日本聖公會にっぽんせいこうかいの諸すての監督かんとく殊ことに此教區このけうくの監督かんとくに天てんの恩寵めぐみを降くだし常つねに導みちびきて身みも靈たましひも守まもり給たまへ又また願ねがはくは優渥ゆたかに聖靈せいれいの恩物たまものを與あたへて忠實ちゅうじつに爾しゆの命令めいれいを守まもり其權威そのけんゐを使用もちひしめ牧者ぼくしやの長ながの顯あらはれ給たまふ時とき朽くることなき榮光えいこうの冠かんがいりを受うけしめ給たまへ主しゆイエス基督きりすとに依よりて希こほひたてまつる

アーメン

○教會のため

『特別ノ傳道地ニ就テ用フルトキハ司會者何々教會の爲に祈るべし』ト云フベシ

天地萬物てんちばんぶつを統御すさめ給たまふ疆かぎりなき全能せんのうの神かみよ憐恤あはれみを以もつて我等われらの願ねがひに耳みみを傾かためて此教區このけうくの上うへに祝福さいはひを降くだし給たまへ願ねがはくは教職しやくと他たの傳道者でんたうしやに熱心ねつしんと智識ちしきを授まげ總すべての信徒しんたうに必要なひつたうなる恩惠めぐみを與あたへ給たまへ幼稚ちようじきものを祝しゅくして之これを守護まもり信仰しんかう厚あうきものを強つよめて其數そのかずを増まし病やめるものを慰撫なぐさめ之これを救すくひ惡あくに陷おちるものを翻ひるがへして善ぜんに向むかはしめ眠ねむれる者を醒さまし倒たふれたるものを起おこし悔くゆるものを受け此傳道地このでんたうちの總すべての未信者みしんじやを爾しゆの救すくひに入いらしめ給たまへ願ねがはくは爾しゆの道みちの妨害さまたげを除のぞき爾しゆの聖名せいめいを稱とふる人々ひとびと悉ことごとく聖公會せいこうかいの中なかにありて一致親愛いつちしんあい

することを得させ給へ。主イエス基督に依て希ひたてまつる。アーメン。

○働人のため

慈悲深き神よ、爾我等と俱に在し給ふにあらずば、我等の勤勞は空し、爾若し我等と俱に在し給はゞ、弱き僕も勇者の如く進み行かん。願くは聖公會(殊に……)教會に於ける聖旨に合ふ總ての働さを祝したまへ。又願くは働らくものをして變らざる信仰を以て、徧に爾の爲を圖り、此世に於ては、豊かなる實を結ばしめ、後の世に於ては、永久爾のみまへに奉事たてまつる幸福を得させ給へ。主イエス基督に依て希ひたてまつる。アーメン。

○學校其他の働のため

憐恤ある主よ、恵を以てわれらの働を盛ならしめ給へ。願くは此所に於て、爾に事ふるものを顧み、常に聖旨に従がひ、爾の聖業を行ひ、生命終るまで撓まず事へまつることを得させ給へ。主イエス基督に依て希ひたてまつる。

アーメン

○神學校のため

全能の神よ、願くは各神學校(殊に……)の校長教員の上、に力と智慧の靈を注ぎ、其教と模範によりて、能き働き人を養育しめ給へ。又願くは、學生等に、丈夫のごとく、強き心を與へ、堅く信仰に立ち、耐へ忍びて己に勝ち、愛を以て従順ひ日々

基督にありて怠らず學び言と行にて榮光を顯すことを得
させ給へ。主イエス基督によりて希ひたてまつる

アーメン

○又

全能の父よ此學校の生徒を照覽し給はんことを希ひたて
まつる願くは謙遜従順にして其務を勵み神のよき言を味
ふ事を得させたまへ。又愛の聖靈に充たされ親愛を以て相
交はり爾を敬ひ爾を愛し其備の時の終りし後爾の與へた
まふ所の務めを能く盡し終に永遠の聖國をつぐ事を得さ
せたまへ。主イエス基督の親愛によりて伏て祈りたてまつ
る アーメン

○學校のため

凡ての光と生命の源なる天の父よ願はくは凡ての學校(殊
に：)に豊かなる恩を下し各々謹みて爾の眞を究め其授
けられたる務を盡さしめ給へ。主イエス基督の聖名により
て希ひたてまつる アーメン

○親戚朋友のため

憐恤ある主よ我等の親戚朋友及び總ての親近き人々を爾
の保護と恩恵に委ねたてまつる願くは總て必要なるもの
を與へ誘惑の中より救ひ生涯彼等を導きて安全に爾の聖
國に到らせ給へ。主イエス基督に依て希ひたてまつる

アーメン

○又

全能の神よ、總て我等の親戚朋友を爾の守護に委ねたてまつる願くは、彼等を眷顧し、爾を知れる者には絶ず、爾を敬ひ愛しむ心を與へ、爾を知らざる者をば導きて神の子たちの榮なる自由に入らしめ給へ。此願を我等の主イエス基督に依て徧に希ひたてまつる。アーメン

○信徒按手式志願者のため

凡の善賜の原なる天の父よ、使徒たちの模範に従ひて爾の僕なる監督が手を按んとする人々の爲に、只管爾の恩寵と憐恤を願求めたてまつる。願くは此按手によりて慰主なる聖靈を降しかれらるを強め、かれらを照し、聖言をさとらせ、聖

旨を行はせ、生涯信仰の善き戦をたゝかひて、終に永遠き生命の冕を受くることを得させ給へ。爾と聖靈と一體の神に在して、世々統御め給ふ主イエス基督に依て希ひたてまつる。アーメン

○指導のため

謙る者を正義にみちびき、直き者に光を彰し給ふ神よ、願くは我等の心定まらざるとき、爾の我等に行しめんとして、爲たすふことを懇求させ、智慧を與ふる靈に従ひて、誤謬を棄て、爾の光によりて光を得、爾の正路を歩みて、躓くことなからしめたまへ。主イエス基督によりて希ひたてまつる。

アーメン

○主日前夜の祈

萬物を造り給へる全能の神よ我等爾が過去の生涯を導き
て健全に此主日の前夜にまで至らせ給へる事を感謝した
てまつる願くはすべて世の煩慮を擲棄ち聖き喜樂を以て
主の設け給へる日を守らせ給へ。又願くは我等心を合せ敬
肅て爾を拜み聖語を以て教られ聖奠を以て養れ且既に基
督と俱に甦りたれば益天上のものを求め終に爾の民に遺
られたる安息に到ることを得させ給へ。聖子イエス基督の
續に依て希ひたてまつる アーメン

○聖餐前の祈

慈悲の父全能の神よ罪に汚れいと弱き我等聖卓の下に近

づくことを畏みて主の大なる憐憫を只管請ひ求めたてま
つる父よ願くは聖靈の感化にて我等を潔め我等を照し我
等をして主の聖前に聖子の命じたまひし紀念の祭を營む
に適ふ者とならしめたまへ。又願くは我等良心の責なく互
に相愛する心を以て救主のいと尊き體と血を正しく受け
己を獻げて此量りなき恩恵を感謝し常に聖き生涯を以て
主に事ふることを得させたまへ。聖子我等の救主イエス基
督の續によりて希ひたてまつる アーメン

○聖餐後の祈

主よ願くは慈悲を以て爾の家族を顧み妙なる聖奠に由て
聖められたる我等の心を守護たまへ。爾は大なる憐恤によ

り我等をして永遠き生命の糧を受けさせ給へり願くは尙
 權能を以て此の賜を恭しく保つことを得させ給へ主イエ
 ス基督に依て希ひたてまつる アーメン

○ 晩の感謝

聖き父限りなく活る全能の神よ爾は我等の徳によらず唯
 爾の大なる恩寵によりて今日も爾の卑しき僕を安全に保
 護り給ひしことを感謝し奉つる憐恤深き神よ我等を明朝
 まて恙なく到らせ唯口のみならず行にも爾の譽を顯させ
 給はんことを主イエス基督に依て希ひたてまつる

アーメン

○ 修養會の祈

主イエス基督よ爾は往時往來の者多かりしかば汝等暫く
 我と共に寂寞處に退きて休むべしと使徒たちにのたまへ
 り今この所に集へる僕らにも暫く爾と偕に休むことを得
 させ給へ願くは爾を慕ふ我等を導き爾に近よりて親しく
 爾に教へらるゝことを得させ給へ又願くは爾の名を以て
 語らんとする者に智慧と愛を授け其言葉をして徒に地に
 落しめず却て之によりて我等を助け我等を勵まし神民の
 ために遣られたる安息に到るべき路に進ましめたまへあ
 ゝ主よ天の安息に入りし幸福なる者は父と聖靈と俱に世
 々統御め給ふ爾の聖前に夜も日も休みなく事へたてまつ
 るなり アーメン

○又

世の人を照す眞の光なる主イエスよ我ら暫く恒の業務を
 離れ尙よく聖旨を成し遂ぐる準備をなさんとして聖前に集
 ひ奉る願くは憐を以てわれらの心を照らし聖靈の感化を
 以て聖言を悟らしめ給へ又爾の信じ行はせんと求め給ふ
 所を辨別へ快く之に従ひ聖公會の徳を建て各自の救を全
 うすることを得させ給へ父と聖靈と共に一體の神に在ま
 して世々統御め給ふ爾に冀ひ奉る アーメン

特別祈禱終

傳道感謝

司會者ハ適宜ニ此感謝ノ全部或ハ部分ヲセクスト又ハコムプリンノ
 特禱ト併セ用フルヲ得

(一)

司會者 主よ權威・富・智慧・能力は爾に歸すべきものなり
 尊貴・榮光・讚美は爾の受くべきものなり
 榮光ある聖名は讚美べきかな
 みことばは既にひいき渡りたり
 番にエルサレムとアンテオケとにのみならず
 アテンスとロマとにのみならずして
 何國にも信仰の道は傳はり

會衆

普く諸邦に宣べらるればなり
至高に在す神よ世々かぎりなく爾に榮光あれ

(二)

司會者

終まで忍びて正義しくたゝかひたる

世々の善き兵士らのために

博士たちの智慧傳福音者等の熱誠

預言者等の雄辯牧師等の博愛のために

嬰兒らの讚美婦人等の給事

壯者らの貞潔老者たちの熱心のために

凡て爾が偕に在すことの徴證のために

爾の十字架の諸般の記號のために

會衆

至高さに在す神よ世々かぎりなく爾に榮光あれ

(三)

司會者

諸國諸族諸音諸民に宣傳へらるゝ

萬代不易なる福音の光明のために

陰府の門も克つ能力なき

眞理の柱と基なる聖公會のために

穎悟者をば大空の光輝の如くにし

衆多の人を義に復する者をば星辰の如にし

無窮の榮光をあたへんと約したまひし

仁慈あるみことばのために

會衆

至高に在す神よ世々かぎりなく爾に榮光あれ

司會者

主はめぐみふかく憐恤あはれみに充みてり

(四)

主の震怒みいきりはちとく其の仁慈みいつくしみは大なり

主は千萬ちよろづのものに恩寵めぐみあり

主のあはれみは天工みわざのうへに普あまねし

主よすべての事跡みわざは爾しゆに讚美さんびをさしげ

もろくの聖徒せいとは皆爾みなしゆに感謝かんじやうし奉たごまつる

かれらは聖國みくにのえいくわうをかたり

爾しゆのみちからを宣傳のべつたへて

大能たいのちからと榮光えいこうと聖國みくにの威稜みいづとを

人の子ひとこたちに告つげしらすなり

會衆

主しゆよ聖國みくにはとこしへの國くになり

其政治そのまつりごとは萬代よろづにたゆることなし

至高いとたかきに在います神かみよ世々よよかぎりなく爾しゆに榮光えいこうあれ

(五)

司會者

主全能しゆせんのちからの神かみよ

御事跡みわざは大なるかな妙たへなるかな

萬民ばんみんの王わうにてまします主しゆよ

爾しゆの道みちは義ぎなるかな真しんなるかな

誰これか爾しゆを畏かしこみ仰あやがざらんや

何人たれか聖名みなを崇あがめまつらざらんや

唯爾ただしゆのみ聖せいにて在いますなり

主よ萬國の民は皆みまへに來りて拜せん
 爾の公義審判はすでに顯れたればなり
 至高に在す神よ世々かぎりなく爾に榮光あれ

(六)

司會者 こののち我れ觀しに

諸國諸族諸民諸音の中より

何人も算へつくす事能ざる程なる許多の人

身に白さ衣をまとひ手に櫻櫛の葉をもち

寶位と羔の前に來りて立てり

かれら聲高によばはりて曰く

救は寶位に坐せる我らの神と羔より出るなり

ハレルヤ主全能の神は統治めたまふと

會衆 至高に在す神よ世々限なく爾に榮光あれ。アーメン

司會者 願くは主なんぢらと俱に在すことを

會衆 願くは主なんぢの靈と俱に在すことを

司會者 我等主を祝ひまつらん

會衆 神は頌むべきかな

司會者唱フベシ

願くは主我らを憐れみその凡ての忠義なる僕世に在るも
 の及び世を去りし者と俱に安らかに憩はせ給はんことを
 アーメン

傳道感謝終

傳道^{でんたう} リタニー

「此リタニーナ或ハ別ニ或ハセクストト俱ニ用フルハ司會者ノ隨意ナリ」

司會者 天^{てん}の父^{ちち}なる神^{かみ}よ

會衆 われらを憐^{あはれ}みたまへ

司會者 世^よをあがなひ給^{たま}ひし子^こなる神^{かみ}よ

會衆 われらを憐^{あはれ}みたまへ

司會者 父^{ちち}と子^こより出^いづる聖^{せい}靈^{れい}なる神^{かみ}よ

會衆 われらを憐^{あはれ}みたまへ

司會者 いとさよくして榮^{えい}光^{くわう}ある三^{さん}位^ゐ一^{いつ}體^{たい}の神^{かみ}よ

會衆 われらを憐^{あはれ}みたまへ

司會者 主^{しゆ}よ願^{ねが}は我^{われ}等^らの過^す去^ぎにし不^ふ忠^{ちゆう}及^{およ}び好^よ機^き會^をを忽^{ゆる}諸^か

にし聖聲を聞きしことを追想ひたまふことなく

われらを救したまへ

會衆 主よ救したまへ

司會者 願くは高慢偽善自負分争および黨派の利を求め己

が益を貪りて基督の榮光を求ざる事より

會衆 主よ救ひたまへ

司會者 願くは人に對して勇氣なく忍耐なく忿恚易きこと

爾に事へて熱心ならざる事より

會衆 主よ救ひたまへ

司會者 願くは測るべからざる基督の富を異邦人に傳ふる

責任を忘るゝことより

會衆 主よ救ひたまへ

司會者 願くは爾の獻げ給ひし完全き犠牲天地の間に有ち

給ふ權力爾の斷ざる仲保又萬民の救を望み給ふ博

愛により

會衆 主よ救ひたまへ

司會者 憐み深き主よ願くはわれらの祈願をさし爾の道を

萬民に教へ爾の救を萬國に知らせ給はんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは傳道に従事する監督長老執事に勇氣と熱愛

を與へ暗昧と迷惑にをる人々に間斷なく福音を宣

傳させ給はんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは彼等の下にありて爾の葡萄園に働く僕婢に

相應しき恩恵を與へたまはんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは神學生の心を照して忠實に聖き職を盡す僕

を起したまはんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは聖名によりて建られたる各學校の教員生徒

を幸ひたまはんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは爾の愛に勵まされて疾病者のために働らく

人々に恵を與へ疾病者の憂を換て救の喜に入らし

めたまはんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは各傳道會社を繁榮爲しめ聖公會の働を擴め

たまはんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは爾の公會の只管の祈願を聞食し爾の收穫場

に善き働人を送りたまはんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは爾のおくり給へる人々の爲に働をなす門を

ひらき爾の道をして疾く擴まり榮を受けしめたま

はんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは彼等に熱心と智慧を予へ人を愛し救に誘な

ひ怠ず之を擁守り完全に導くことを得させ給はん

ことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは彼等に國々の言語をかたる能力を與へ福音

の眞理を宣傳へさせたまはんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは彼等の旅行する時海陸の危険を防ぎ病ると

き慰を與へ常に其のあゆむるろくの道を保護り

給はんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは爾を信するものを堅く立しめ彼等の中に始

たまひし聖業をなし遂げ給はんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは聖名の爲に損失迫害を受くる者に勇氣と忍

耐とを與へ給はんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは教友なき土地に居り聖公會の聖奠其他の禮

拜に列り得ざる信徒と共に在して慰護りたまはん

ことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは初の愛を離たるものを喚還し誠實の悔改に
みちびきたまはんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは聖公會の洗禮志願者の心をてらし偶像を拜
する等の妄信を取除き給はんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは聖名を稱ふるもの心を同らし眞實平和を以
て一の聖き繫の中に相結び一致親愛することを得
させ給はんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは外國にある凡ての信徒に恩を與へ偕に居

會衆 るもの、幸の本とならしめ給はんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは世の智者に幼兒の心を與へ神の能力神の智
慧なる爾を知らしめ給はんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは爾の公會の働を妨ぐるもの、心を翻し今攻
るところの信仰の道を慕ふにいたらしめたまはん
ことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは古より爾の民なるユダヤ人を爾に和睦がし

め其心をおほへる覆を除きたまはんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くはマホメット教徒・プラマ教徒・佛教徒の眼を開

き救に關係ことを見せしめ給はんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは謂なき妄信に繋がれたる者を解きて神の子

となし・聖き禮拜に與からせ給はんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは凡て此國の人々に恩恵を手へ爾をさぐり爾

を求め爾に遇ふことを得させ給はんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 願くは選びたまへる者の員數を充し速に聖國を臨

らせ給はんことを

會衆 主よ聽容たまへ

司會者 十字架に貴とき血を流して我等を贖ひ給ひし世の

救主よ

會衆 われらを救たまへ我らを助けたまへ

司會者 基督よ我等の願望をきゝたまへ

會衆 基督よ我等の願望をきゝたまへ

司會者 主よ憐みたまへ

會衆 基督よ憐みたまへ

司會者 主よ憐みたまへ

『皆共ニ唱フベシ』

天に在す我らの父よ願くは聖名を聖となさしめ給へ聖國を臨らしめ給へ聖旨を天に於る如く地にも行はしめ給へ。我らの日用の糧を今日もあたへ給へ我らに罪を犯すものを我ら赦すごとく我らの罪をも赦したまへ我らを試に遇せず惡より拯ひ出したまへ。アーメン

○罪人改心のため

慈悲ふかき父よ願くは罪の誘惑によりて頑固になりたる者を憐み給へ。かれら自己を省みる心を起し爾に歸る希望と力をうけ爾の慈愛によりて罪のゆるしを被り再び子となることを得させ給へ。主イエス基督によりて希ひたてま

つる。アーメン

○聖公會のため

永遠にかはらざる光と能力を有たまふ神よ聖子の體なる聖公會を監視し安穩に世を治めて人類の救を完全からしめ給へ願くは世の民の心を開き彼等をして萬物の倒れたるものは興され古びたるものは新にせられ聖子によりて創造たる物は悉く聖子によりて完全に復さるゝことを感ぜしめ給へ。主イエス基督によりて希ひたてまつる

アーメン

○聖公會進歩の爲めの感謝

全能の神天の父よ爾は我らを深くいつくしみ爾の愛子イ

エス基督を予へて我等の贖主となし終始なき生命の原となし給へり聖子は其死を以て我らの贖罪を成就し天に昇りしのち使徒預言者傳福音者教師牧師を送り其動作により世界の列國に大なる群を集めて聖名のほまれをあらはさせたまへりかく大なる恩恵を垂給ひしことを我ら深く感謝し爾をほめたへ爾を拜みたてまつる願くは此所に於ても何處に於ても爾の聖名を稱ふる者皆常に此等の恩恵を感謝し聖靈によりて爾と聖子を愈知り日々信仰に進み又常に聖名を頌め益天國を弘むることを得させたまへ。爾と聖靈と俱に世々統治めたまふ聖子イエス基督によりて希ひたてまつる アーメン

司會者 願くは主なんぢらと俱に在すことを
 會衆 願くは主なんぢの靈と俱に在すことを
 司會者 我ら主を祝まつらん
 會衆 神は頌むべきかな

司會者唱フヘシ

願くは我らの中に働らく能力に循がひ凡て我らの求むるところ思ふ所よりも遙に過れる事を行得る全能の神に基督イエスにより公會の中にて世々窮なく榮を歸せんことをアーメン

傳道リタニ終

傳道詩篇

『此レナセクストノ詩篇ニ代用スルハ司會者ノ隨意ナリ』

『司會者唱フベシ』

もろくの國民の中にいへ主は統御めたまふと

○詩九十六篇

1 あたらしき歌を聖にむかひてうたへ

全地よ聖にむかひて歌ふべし

2 聖に向ひてうたひその聖名をほめよ

日ごとにその救をのべ傳へよ

3 諸の國の中に其榮光をあらはし

諸の民の中に其奇しき御事跡を顯はすべし

- 4 主はちほいなり大にほめ稱ふべきものなり
もろくの神にまさりて畏るべきものなり
- 5 もろくの民の神たちはみな虚しきものなり
されど主はもろくの天をつくりたまへり
- 6 尊貴と威稜とはその前にあり
能力と善美とは其聖所にあり
- 7 もろくの民のやからよ主に獻げまつれ
榮光とちからを主にさしげまつれ
- 8 其聖名にかなふ榮光を主に獻げまつり
獻物をたづさへて其大庭にきたれ
- 9 さよき美はしきものをもて主をがめ

全地よ其前にをのゝけ

- 10 もろくの國民のなかにいへ

主は統をさめたまふと

世界もかたく立て動かさるゝことなし

主は正直をもて凡ての民をさばき給はん

- 11 天はよろこび地はたのしみ

海とそのなかに盈るものとは鳴どよみ

- 12 田畑と其中のすべての物とはよろこぶべし

斯て林の諸の樹もまた主の聖前によるこび歌はん

- 13 そは主來たりたまふ

地をさばかんとて來たりたまふなり

主は義をもて世界をさばさ

その眞實をもて諸の民をさばさ給はん

父と子と聖靈に榮光あれ

元始にあり方今あり世々かぎりなく在なりアーメン

○詩百十七篇

1 もろくの國よなんぢら主を讚めまつれ

もろくの民よ主を稱たへまつれ

2 我らに賜ふその憐は大なり

主の眞實はとこしへに絶ことなし主を讚めまつれ

父と子と聖靈に榮光あれ

元始にあり方今あり世々かぎりなく在なりアーメン

皆唱フベシ

もろくの國民のなかにいへ主は統御め給ふと

此處ニテ司會者左ノ小日課ヲ讀ムベシ

イエス進み寄りて其弟子に語りいひけるは天のうち地の
上のすべての權を我に賜れり是故に汝等ゆきて萬國の民
を弟子とし父と子と聖靈の名によりて彼等に洗禮を施し
且すべて我汝等に命ぜし事を悉く守れと彼等に訓へよ視
よ我は世の終末まで常時に汝等と偕に在なりアーメン
會衆 神は頌むべきかな

○

司會者 主よみことばは天にてとこしへに定まれり

會衆 爾の眞實はよろづ世におよぶ
 司會者 父と子と聖靈に榮光あれ
 會衆 元始にあり方今あり世々限なく在なり。アーメン
 司會者 主は統御めたまふ。全地はたのしむべし
 會衆 多くの島々はよろこぶべし
 司會者 我等祈るべし

『此處ニテ當日ノ特禱ヲ用フルヲ得其レニ續キテセクストノ特禱以下ヲ用フベシ』

傳道詩篇終

特別小日課

『司會者ハセクスト又ハコムプリンノ小日課トシテ之ヲ用フルヲ得』

降臨節

羅馬書第十三章十一節十二節

我儕は時を知り今は寢より寤べきの時なり蓋信仰の初より更に我儕の救は近し夜すでに央て日近けり故に我儕暗昧の行を去て光明の甲を衣べし

降誕日

『現異邦日前夜迄之ヲ用フベシ』

路加傳第二章十節十一節

天使牧ふものに曰けるは懼ること勿れわれ萬民に關りたる大なる喜の音を汝等に告ぐべしそれ今日ダビデの邑に

於て汝等の爲に救主うまれ給へり是れ主たる基督なり

○現異邦日

「當日ヨリ八日間之ヲ用フベシ」

以賽亞書第六十章二節三節

なんぢの上には^{しほ}日照出たまひてその^{えい}榮光なんぢのうへに
顯るべし。もろくの國はなんぢの^{ひかり}光にゆきもろくの王
はてり出るなんぢの^{かがやき}光輝にゆかん

○大齋

「復活前主日迄用フベシ」

以賽亞書第五十五章七節

惡きものはその^{みち}途をすてよこしまなる人はその^{おもひ}思念をす
て、^{しほ}望にかへれさらば^{あはれ}憐憫をほどこしたまはん。我曹の^{かみ}神
にかへれ^{ゆたか}豊に^{ゆるし}救をあたへたまはん

○復活前週

以賽亞書第五十三章六節

われらはみな羊のごとく^{まよ}迷ひておのゝ己が^{みち}道にむかひ
ゆけり然るに^{しほ}望はわれら凡てのもの^{よぎ}の不義をかれのうへ
に^{おき}置たまへり

○復活節

羅馬書第六章九節十節

基督死より^{よみがへ}復活りて^{また}復死す。死復た^{かれ}彼に^{しほ}主となること無し。
その死しは^{つみ}罪に^{つぎ}就て一たび^{しほ}死しなり。その^{いひ}生るは^{かみ}神につき
て^{いひ}生るなり

○昇天前祈禱日

路加傳第十一章九節十節

イエス曰ひ給ひけるは我なんぢらに告げん求よ然ば予へ
られ尋よ然ばあひ門を叩よ然ば啓るゝことを得ん蓋すべ
て求る者は得たづぬる者はあひ門を叩く者は啓るればな
り

○昇天節

使徒行傳第一章十節十一節

イエスの昇れる時かれら天を仰ぎ視たりしに白衣を着た
る二人の人ありて旁に立曰けるはガリラヤ人よ何故に天
を仰ぎて立るや汝等を離て天に擧られし此イエスは汝等
が彼の天に昇るを見たる其如く亦きたらん

○聖靈降臨節

使徒行傳第二章一節二節

ペンテコステの日に至りて弟子等みな心を合せて一處に
在しに俄に天より迅風の如き響ありて彼等が座する所の
室に充てり

○萬福なる處女マリアの祝日

路加傳第一章三十五節

天使彼にこたへて曰けるは聖靈なんぢに臨る至上者の大
能なんぢを庇ん是故になんぢが生ところの聖なるものは
神の子と稱へらるべし

○使徒の祝日

以弗所書第二章十九節二十節

是故に汝等今より賓旅に非ず亦寄寓者に非ず聖徒と同じ
邦また神の家に屬する者なり且なんぢら使徒と豫言者の
基の上に建らる。イエス基督自ら其隅の首石となれり

○聖徒馬可日及び聖徒路加日

默示録第四章八節

この四の活物おのゝ六の翼あり其内外ことごとく目な
り此もの夜晝息ずしていふ聖なる哉聖なる哉聖なる哉昔
し在し今在し後います主たる全能の神と

○施洗者約翰誕生日

路加傳第一章十三節十四節

天使かれに曰けるはザカリアよ懼るゝ勿れなんぢの祈禱
すでに聽たまへりなんぢの妻エリサベツ男子を生ん其名
をヨハネと名くべしなんぢに喜と樂あらん多の人も亦其
生るゝに因て悦あらん

○變容貌日

路加傳第九章二十九節至三十一節

イエス祈る時に其顔の貌常と異り其衣服白く輝ぬ二人の
人ありて之と言ひ即ちモーセとエリヤなり榮光の中に現
てイエスのエルサレムにて既や世を逝んとするを語る

○聖米迦勒と諸天使の日

默示録第十二章七節八節

かくて天に戦起れり。ミカエルその使者を率て龍と戦ふ。龍も亦その使者を率て之と戦ひしが勝こと能ず。且再び天に居ことを得ず。

○諸聖徒日

黙示録第七章九節十節

此後われ觀しに諸國諸族諸民諸音の中より誰も數へ盡すこと能ざるほどの許多の人白衣をさ手に椶櫚の葉をもち寶位と羔の前に來りて立てり。かれら大聲に呼り曰けるは。救は寶位に坐せる我儕の神と羔より出るなり。

○聖職按手節

以弗所書第四章八節十一節十二節

かれ上に昇しとき擲にする者を擲にし。賜を人に給へり。その賜ひし所は使徒あり。豫言者あり。傳道者あり。牧師あり。教師あり。これ聖徒を全らし。服役の事を行ひ。基督の體の徳を建つるためなり。

○金曜日

腓立比書第二章五節至八節

なんぢら基督イエスの意を以て意とすべし。基督は神の體にて居しかども自ら其神と匹く在ところの事を棄難さ。ことと意はず。反て己を虚らし。僕の貌をとりて人の如くなれり。既に人の如き形狀にて現れ己を卑し。死に至るまで順ひ。十字架の死をさへ受るに至れり。

○聖餐後

哥林多前書第十章十六節十七節

余等われらが祝いはふ所ところの祝杯いはいのさかづきは同ともに基督キリストの血ちを享うるに非あらずや余等われらが擘きところの麥餅ばんは同ともに基督キリストの體からだを享うるにあらざるや麥餅ばんは一ひとなり故ゆゑに多おほく余等われらもまた一體ひとつからたなり蓋まみな一ひとの麥餅ばんを同ともに享うければなり

特別小日課終

小祈禱書終

明治三十一年六月九日印刷
明治三十一年六月十二日發行
明治三十六年四月二十日再版
明治三十六年四月廿三日再版發行

編纂兼發行者

エ、エフ、キング

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

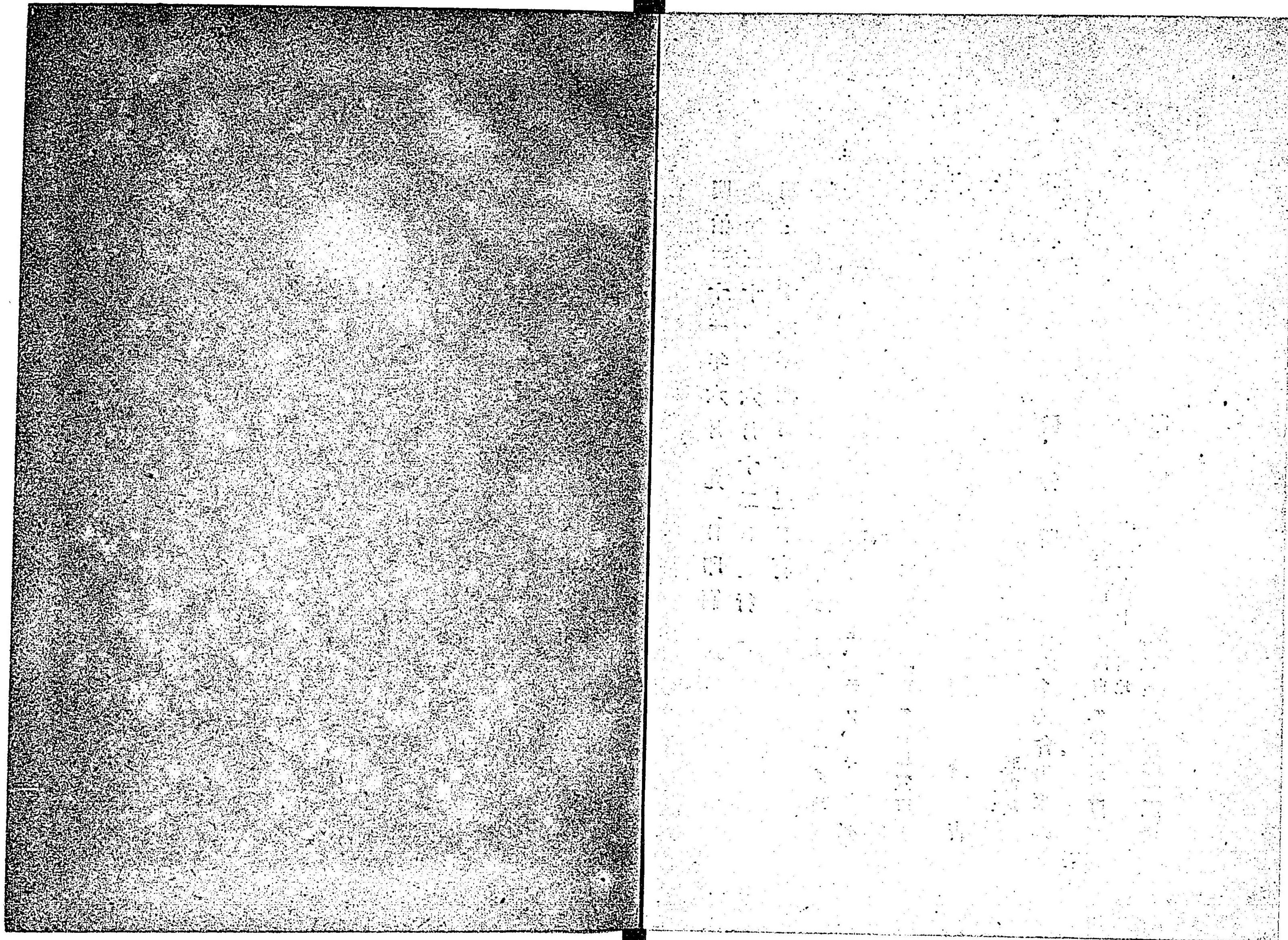
印刷者 藤本兼吉

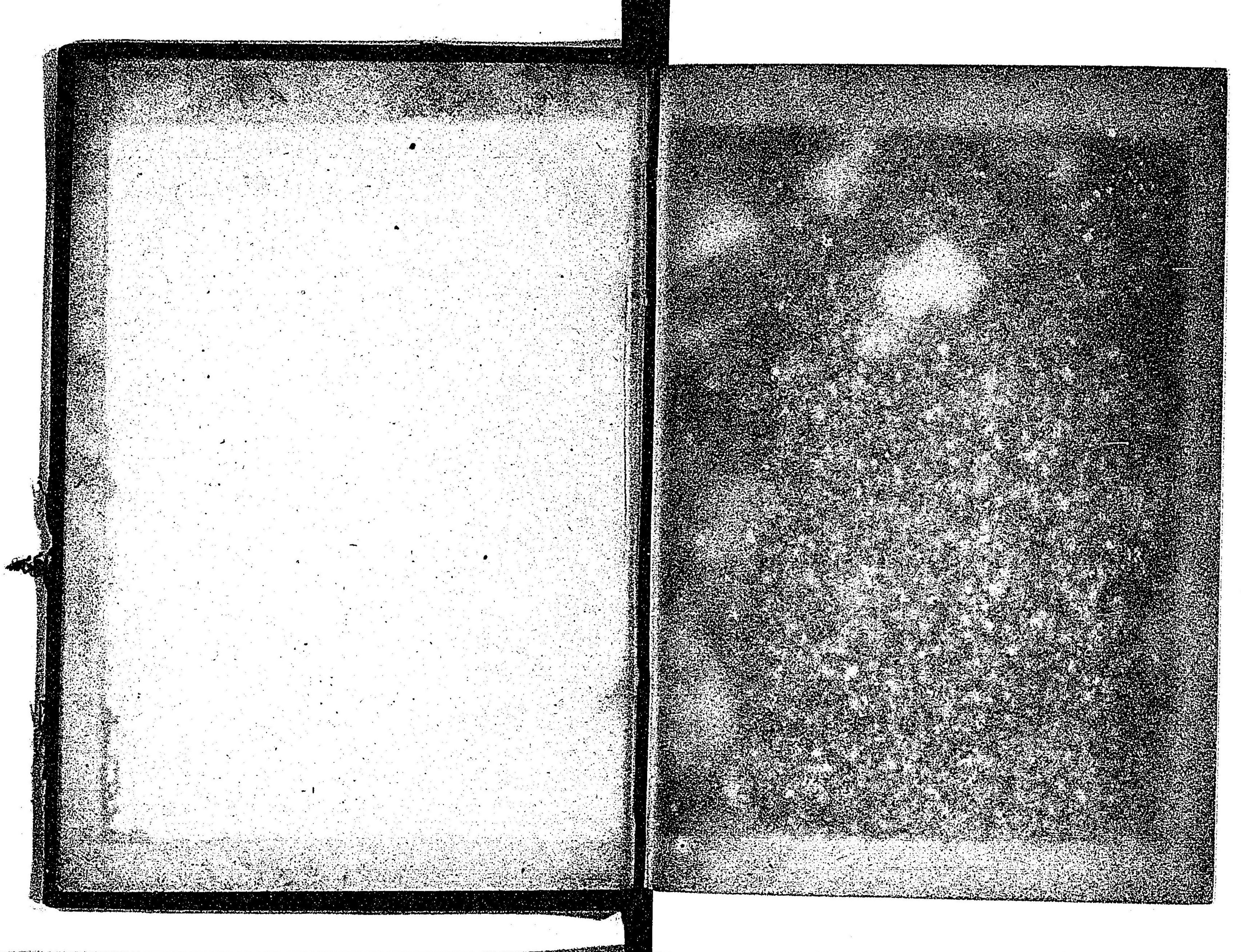
東京市京橋區竹川町十五番地

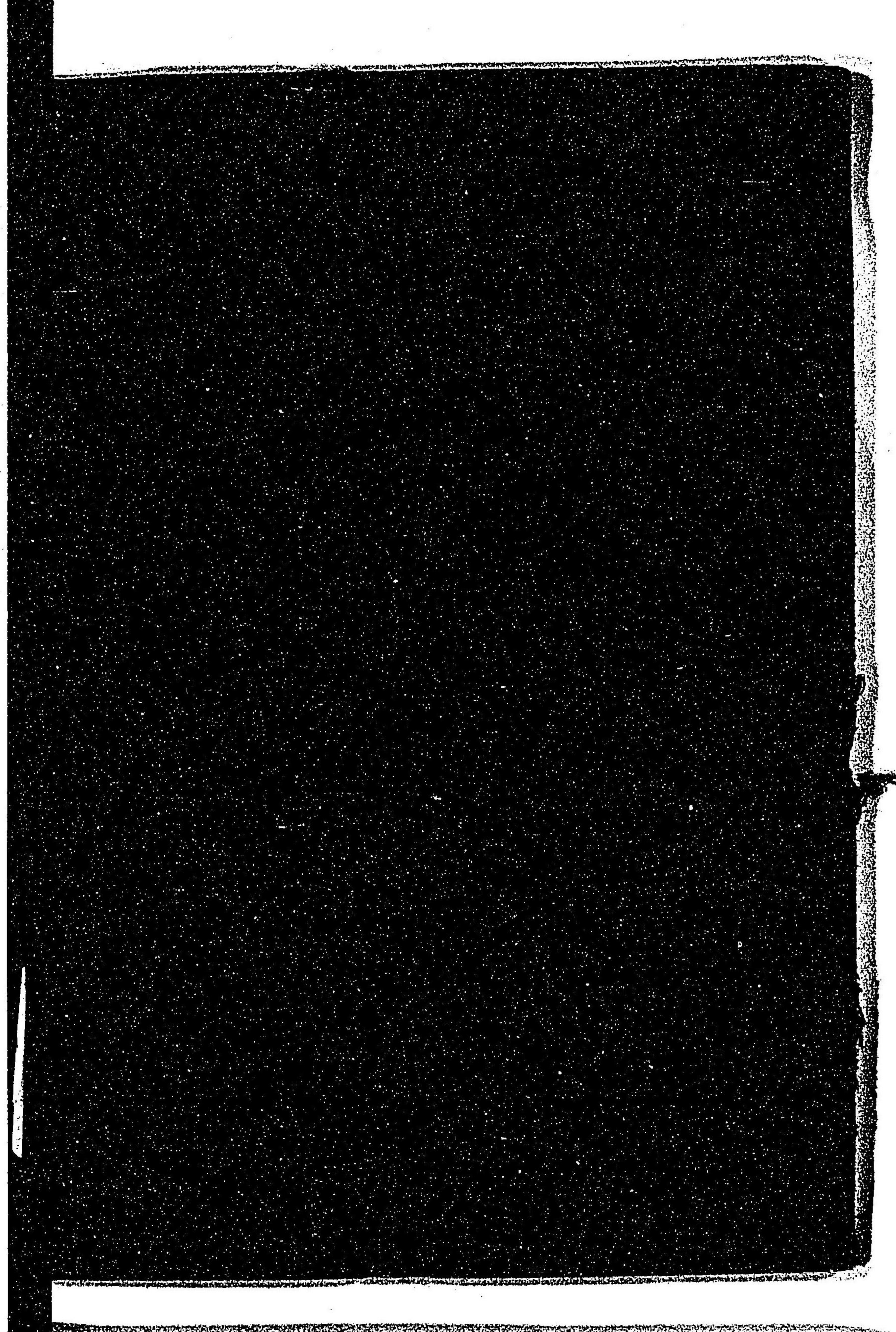
發行所 日本聖公會出版社

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社 秀英舎第一工場







020744-000-9

特61-864

小祈祷書

エ・エフ・キング/編

M36

ABI-0564



